

2017年3月期 上期決算説明会 質疑応答

2016年11月10日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1: 心臓血管カンパニーの増収率は、為替の影響を除くと、第1四半期の12%に対し上期は10%となっている。第2四半期が減速している要因は？また、第3四半期以降の売上の見通しは？

A1: カテーテル (TIS) 事業およびニューロバスキュラー事業の合計の売上高は、為替の影響を除くとほぼ全ての地域で二桁伸長となっている。第1四半期と比べて、中国のニューロバスキュラー事業がやや減速しているが、通期では回復すると見ている。TIS事業については第3四半期以降も二桁伸長が続くと見ている。

Q2: 心臓血管カンパニーの事業利益率は、第1四半期の31%に対し、上期は27%となっている。第2四半期の利益率が大きく下がっているようだが、その要因は？

A2: 第2四半期の事業利益率は、第1四半期比で約7ポイント下がった。最大の要因は為替の影響でマイナス3ポイント。その他、Misagoのリコールに伴う落帳でマイナス1ポイント、売上減に伴う販管費の比率増等でマイナス2ポイントとなっている。

Q3: 第1四半期は、Ultimaster と並んでアクセスデバイスの利益貢献が大きかったようだが、第2四半期はどうか？

A3: Ultimaster とアクセスデバイスが大きく利益貢献している状況に変わりはない。

Q4: 第1四半期は、営業活動による収益改善でフランスやドイツの事例の説明があったが、その他の地域でも実施しているのか？

A4: 営業活動による収益改善は全地域で取り組んでいる。代表的な例として、フランスやドイツを紹介した。収益性を重視し、販売価格の高い地域にリソースを投入している。

Q5: Ultimaster の日本およびグローバルでの売上の状況は？日本では径4mmの製品がラインアップに追加されたが、売上への影響は？また、日本でのローンチ後1年経ったが、医師の評価はどうか？

A5: Ultimaster を含む薬剤溶出型冠動脈ステント (DES) のグローバルでの売上高は、上期で100億円強、前年同期比44%増となった。日本では、2015年10月のローンチ後は非常に好調であったが、2016年に入って競合製品のローンチの影響により、若干下がった。径4mmの製品の追加に加えて、今後2.25mm品の投入も予定しており、ラインアップの拡充により売上を伸ばしていきたい。医師からは、柔軟性の高さから、ステント留置後、バルーンを拡張した後に良好な血管壁へのステント圧着を得られるとの評価を頂いていると聞いている。

Q6：日本でも競合の生体吸収性ステントが承認を取得し、近いうちにローンチされる可能性があるが、影響をどのように見ているか。

A6：日本の医師は、新製品が出ると試し使いをする傾向があるが、一方で患者さんへの影響も考慮し、非常に慎重な面もある。生体吸収性ステントは、金属製のDESとは異なり、全く新しいタイプの製品なので、慎重に様子を見ながら使われるのではないかと考えている。

Q7：生体吸収性ステントと、ハイブリット型DESの両方を、並行して研究開発を進めているようだが、進捗状況は？

A7：現在並行して進めている。年度内にはプライオリティを決めたいと考えている。

Q8：カテーテル関連製品の増産体制整備のため、山口工場で一時的に費用が増えているとのことだが、今後も費用増は続くのか？愛鷹工場とベトナムの工場での生産分担によりコスト削減を推進してきたと理解しているが、コスト削減ではなくBCPを優先するのか？

A8：山口工場は当初BCPの観点から設立された経緯があるが、現在はBCPだけでなく、需要が増えているカテーテル関連製品の増産を支える役割も担っている。投資直後はコストが増えるが、その後、生産・販売数量の増加により、収益にもプラスに寄与する見込みである。

Q9：第1四半期の決算説明の際、Sequent Medical社の買収の影響額を暫定値として開示されたが、その後変動はあるか？また、下期に買収に伴う特損が出るとのことだが、具体的にはどのような内容なのか？

A9：業績への影響は精査中だが、大きな変動はないと見ている。特別損失は、統合を進める中で、人員体制や代理店契約の見直し等に伴う一時費用を見込んでいます。

Q10：通期業績予想の修正に際して、想定為替レートを変えたにもかかわらず、営業利益の予想額を変えていない理由は？

A10：従来の営業利益の予想額は、上期355億円、下期395億円であったが、上期の実績は394億円と、従来予想を大きく上回った。一方で、下期も為替が円高に推移しており、さらにSequent Medical社の買収に伴うマイナスの影響も見込まれるため、通期の予想を修正していない。

Q11：テルモは手首の血管からアプローチするTRI関連製品で強みを持っているが、大腿部からアプローチするTFI用の止血デバイスを買収する意義は？

A11：冠動脈へのカテーテル術では、TRIの比率が拡大しているが、ペリフェラル（末梢血管）、ニューロバスキュラー（脳血管）では、病変部の血管へのアプローチのしやすさから、現状TFIが主流となっている。当社はTFI用の止血デバイスを獲得することで、アクセスデバイスにおいて、TRIでの強みに加えて、ペリフェラル、ニューロバスキュラーの領域でもよりポジションを高めていきたいと考えている。

Q12: 米国でトランプ氏が大統領に就任することで、オバマケアがなくなる可能性があるが、新大統領の政策とその影響をどう見ているか？

A12: 年単位で見えていく必要がある。中間層の支持を得ることで大統領となったトランプ氏は、オバマケアに代わって独自のセーフティネットを用意する可能性もあると見ている。

以上